

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) チュウオウダイガク	フリガナ) ショウガクブ	フリガナ) ミウラゼミ
中央大学	商学部	三浦ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) チーム 51	フリガナ) シュクヤカズキ	6	なし	なし
チーム 51	宿谷一輝			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

無

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ (発表タイトル)

意思表示で誰かのヒーローに～11 の命へ～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

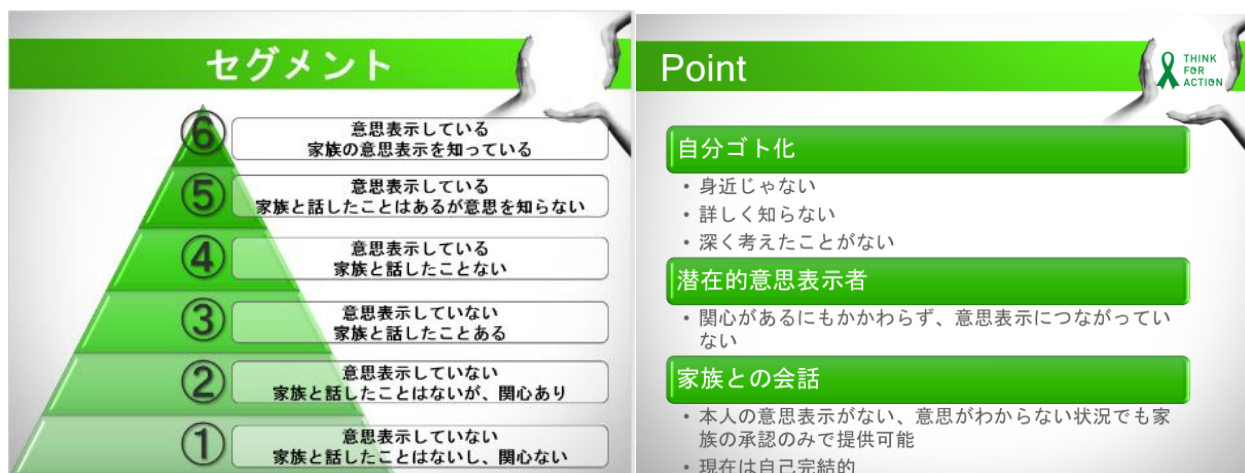
臓器移植とは、病気や事故によって臓器が機能しなくなり、他者の健康な臓器を移植することで機能を回復させる医療である。しかし日本の移植待機者 14000 人のうち一年間で移植を受けられる人はわずか 2.0%しかない。臓器移植に関して深く調べていく内に、私たちはこの日本の現状を臓器移植への関心の低さに問題があると考えた。

そこで、家族で臓器提供問題を身近な問題として捉えてもらい、いざという時に家族が決断しやすくすることを目的としている。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

臓器移植とは移植手術が必要な人へ健康な臓器を提供することで回復をはかる医療であり、これは善意に基づく医療である。臓器移植には3つの種類があり、生体移植、心停止後臓器移植、脳死後臓器移植に分けられる。私たちはこの中から心停止後臓器移植、脳死後臓器移植に着目した。臓器提供に関する権利として、提供する権利、提供しない権利、もらう権利、もらわない権利が認められている。そういった権利を表示するものとして臓器提供意思表示というものがある。意思表示方法としては現在、臓器提供意思表示カード、マイナンバーカード免許証、保険証の裏面、ウェブなどがある。臓器提供意思表示カードの配布方法としては記入方法や臓器提供の流れや情報が記載されているリーフレットとともに市役所や小中学校、薬局、病院などで

配布されている。しかし内閣府の調査によると現在の意思表示率は 12.7%にとどまっている。なぜ意思表示率はこんなにも低い数値なのか。私たちの行ったインタビュー調査では「深く考えたことがない」「臓器提供に関して詳しく知らない」「身近ではない」などの声が聞かれた。私たちはこれらの原因として臓器移植に関して「自分ゴト化」できていないからと考えた。また内閣府の調査によると臓器提供に関心がある人は 56.4%いるのに対し実際に意思表示を行っている人は 12.7%おらず、43.7%の人は関心があるのにも関わらず意思表示を行っていない。私たちはこの層を潜在的**意思表示者**と呼ぶことにした。1997 年 10 月の臓器移植法により、脳死下臓器提供は可能となったが、本人の意思表示と家族の承認の 2 つが必要だった。しかし 2010 年に臓器移植法が改正され、意思表示がなくても家族の承認のみで臓器提供が可能になった。では現在の臓器提供意思表示は何のために行うのか。内閣府の調査によると、家族が脳死判定をされた場合、提供しますかという質問に対し意思表示があった場合 87.4%が提供すると答えたのに対して意思表示がない場合 39%と、48.4%もの大きな開きがある。このことから意思表示があることで残された家族は決断しやすく、意思を家族に伝えることが重要となる。しかし現在の意思表示方法は一人に一枚の臓器提供意思表示カード、免許証の裏で自分のみの意思を表示するものであり、自己完結的という問題点がある。現在の方法だと、家族と臓器提供について話すことがない限り、家族の意思を知ることはない。家族の意思を知らないと、残された家族は決断しづらく、後に本人がどう望んでいたのかなど後悔が残る可能性が高いと考える。そういった後悔をなくすためにも家族それぞれの意思をお互いに知っていることが重要であると考えた。大学生を対象にアンケート調査を行ったところ、8 割近くが家族と話したことがなく、また家族の意思をしらないということが分かった。現状分析のポイントをまとめると下図のようになる。



3. 研究テーマの課題

ここで3つの課題として、①自分ゴト化②潜在的**意思表示者**③家族との会話が挙げられる。1つ目の課題は自分ゴト化できていないという点である。臓器提供に関して適切な知識を持っていなかったり、知識がない故に身近な問題として感じる事がなく、他人事としてとらえている。2つ目の問題点は、臓器提供に関心がある人の中で実際に意思表示をしている人が少ないということである。内閣府の調査によると、臓器移植に関心があると答えた人は 56.4%もいるのに対して、実際意思表示を行っているひとは 12.7%しかいない。私たちは関心があるのに意思表示を行っていない 43.7%の人たちを「潜在的**意思表示者**」と呼ぶことにした。3つ目は家族との会話である。本人の意思表示がない、わからない場合でも家族の承認のみで臓器提供が可能になったことで家族と話し家族の意思をお互いに知っていることが重要になる。しかし現在は意思表示が自己完結的であり、家族の意思を知っている人は 2 割ほどしかいない。そして私たちはこの3つの課題には「きっかけ・情報」という共通点があると考えた。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちは、ターゲットを【家族】に設定する。その具体案として家族それぞれの意思を一枚にカードで表示ができる「ファミリーカード」を提案する。「ファミリーカード」には2つの特徴があり、1つ目は家族それぞれの意思を一枚のカードで表示するものである。そのメリットとして、①家族それぞれの意思を共有できる②家族と話したことがない人に対し家族を意識させ話すきっかけとなるという2点である。2つ目の特徴はこれまでの3つの意思表示の選択肢（選択肢1：私は、脳死後および心停止後のいずれでも臓器を提供します。選択肢2：私は、心臓が停止した死後に限り臓器を提供します。選択肢3：私は、臓器を提供しません。）に加えて新たな選択肢4「私は、まだ決断していません」を追加することである。このメリットは臓器提供するのかもしれないかを決断

していない人でも記入することを通して臓器提供について考えさせることができることや、決断をしづらい小さな子供も選択肢4「まだ、決断していない」に記入してもらうことを通して臓器提供について定期的に考えさせることができる点があげられる。

そしてこのファミリーカードそのもののメリットとして、家族間で臓器提供について話し合うきっかけにもらうことである。家族で話し合いながら、それぞれの意思を一枚のカードに記入することにより家族間で話し合うきっかけにすることができる。

また私たちはザイオンス効果（単純接触効果）にも注目した。これは同じものに接する回数が増えるほど、その対象に対して好印象を持つようになる効果のことである。選択肢4があることで決断を迫られる圧迫感を回避でき、外部から促しやすくなる。臓器提供について考えることへの好印象が期待できる。

配布方法に関しては、ファミリーカード配布のタイミングに着目した。現在の意思表示カードは、記入方法や臓器提供に関するデータを含んだリーフレットと一緒に配布されている。しかし私たちはどんな相手にも同じリーフレットを配布するより、のタイミングに合わせた内容を記載したリーフレットを配布し自分の方が、より有効なのではないかと考えた。そこで、現在のリーフレット内容に追加して、学校では、成人式では両親に向けた手紙欄、婚姻届提出時には夫婦の将来設計に関するワーク、出産期には小児の臓器移植に関するデータを掲載し、各年代が自分ゴト化しやすい欄を設けることでさらなる理解や、家族・配偶者など身の回りの人々と話し合うきっかけ作りを目指す。配布方法のメリットとして、①それぞれのタイミングに合った情報を与えることで、より身近に感じてもらう。②潜在的意思表示者に記入する機会を与えることができる。③定期的に考える機会を与えることができる。の3点が挙げられる。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちは街頭調査と Google フォームにて4回のアンケート調査を行った。

日本で唯一、臓器の移植を希望する人に最善の方法で臓器が贈られるように橋渡しの活動をしている「公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク JOT」を実際に訪問し、臓器提供に関する情報収集を行い、実際に移植コーディネーターを務める方から職務の詳細や、脳死下臓器提供の一連の流れについて何うことも出来た。また広報・啓発事業部の栗原様から、「ファミリーカードの実現性はかなり高い。またリーフレットをターゲットごとへの内容変更は JOT 内で共有し、是非作っていきたい。」との好意的なお声を頂いた。また臓器移植に関して啓発活動を行っている「NPO 法人 日本臓器移植支援協会」を訪問し、代表の高橋和子様から「家族のそれぞれの意思を一枚のカードで表示できるようにすることは新しい発想で面白い、ぜひ一緒に作っていきたい。」とのお声を頂いた。



6. 結果や今後の取り組み

日本臓器移植支援協会様が来年度の日本移植学会総会での提案を検討して下さるとのことで、様々な検証を行い、公式なカードとしての採用を目指す。

また、ファミリーカードに記載予定である4番目の「私はまだ決断していません」という選択肢を、免許証や保険証などの個人の臓器提供意思表示に加えることも視野に入れ、こちらに関しても関係機関と話を進めていく。

7. 参考文献

<https://www.jotnw.or.jp/index.html>

- ・日本臓器移植ネットワーク-臓器提供の意思表示に関する意識調査

http://www.jotnw.or.jp/file_lib/pc/press_pdf/2016812press.pdf

- ・Organ Transplant Act 20th Anniversary Memorial Book 臓器の移植に関する法律施行 20 周年記念紙
- ・ご両親から臓器を提供したお子様へのお手紙 think transplant vol35
- ・臓器移植経験者とそのご家族からのお手紙 think transplant vol36
- ・日本の移植事情
- ・臓器移植に関する世論調査-厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10601000-Daijinkanboukouseikagakuka-Kouseikagakuka/0000036241.pdf>

- ・移植医療に関する世論調査-内閣府

<https://survey.gov-online.go.jp/h29/h29-ishoku/index.html>

- ・日本臓器移植ネットワーク【移植で救われた”いのち”のストーリー】

https://youtu.be/hf9Taf_APqs

- ・産経ニュース-臓器提供の意思表示、マーケティングの視点でより明確に...

<https://www.sankei.com/west/news/150609/wst1506090032-n1.html>

- ・withnews-コード・ブルーが描く「臓器移植」絶対、伝えなかった「6行」の紙

<https://withnews.jp/article/f0170908000qq0000000000000000W02c10701qq000015843A>

- ・excite news-日本で臓器提供者が増えない理由

https://a.excite.co.jp/News/health/20171204/HealthPress_201712_post_3385.html

いのちの贈りもの <https://jinishoku.jp/donor/wish/family/index.html>

妊娠・出産・育児の現状と課題 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/tokubetu/kaisai_h20/dai2/siryou2.pdf

東京都 生活文化局（健康と保健医療に関する世論調査）結果

<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/03/07/01.html>

みんなのウェディング×アクサダイレクト生命「結婚と保険」に関するアンケート調査

<http://www.mwed.co.jp/press/release/20140918150043>

0～3 歳児と母親に関する意識と実態調査 <http://www.kumon.ne.jp/kumonnow/topics/vol098>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください**